

学校法人 仙台育英学園 秀光中学校

二〇二四年度 入学者選考試験問題 (教科型)

国語

(第一問～第四問)

注意

- ・試験開始の合図があるまで、問題用紙を開いてはいけません。
- ・この問題冊子は、十四ページあります。
- ・答えはすべて問題の指示にしたがって、解答用紙に記入
しなさい。

第一問 次の問いに答えなさい。

問一 次の——線の読みをひらがなで書きなさい。

- ① 日本列島を縦断する旅。
- ② 砂場に磁石を落とす。
- ③ 仕事を快く引き受ける。

問二 次の——線のカタカナを漢字になおしなさい。

- ① 新商品を大々的にセンデンする。
- ② 飛行機のモケイを作る。
- ③ スポーツ選手が第一線をシリゾク。

問三 次の——線は同音異義語です。カタカナを漢字になおしなさい。

- ① この時計はセイカクに進んでいる。
- ② 彼女はさちようめんなセイカクだ。

問四 次の——線は同訓異字です。カタカナを漢字になおしなさい。

- ① 学芸会の主役をツトめる。
- ② かぜの予防にツトめる。

第二問 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

五年生の一年間、一緒に飼育委員をやった。

小学校で飼っているウサギとニワトリの世話をするのだ。

ウサギは三羽、ニワトリも三羽いた。

飼育委員は毎年、なり手のない役だ。

毎日水かえさやり、飼育小屋のそうじの仕事があるし、

連休や夏休みといった長期の休みでも毎日のように、登校し

なければならぬからだ。

わたしは、じゃんけんで負けて飼育委員を押しつけられた。

生き物は好きで、家にも猫二ひきと犬が一びきいるから世話

自体はそんなに苦痛ではなかったけれど、これで、お休みが

つぶれちゃうなどと考えると少しゆううつな気分にはなった。

五年生は二クラスしかなくて、飼育委員は各クラス一名ず

つ。

① わたしと光一くんだった。

② 最初、がっかりした。

③ 落胆なんて言葉をまだ知らなかったけれど、本当に身体の

力がぬけるような気がした。

④ 飼育委員で、しかも相手が男の子なんて、最低、最悪だ。

動物の世話をまじめにしてくれる男子なんているわけがない、

と、わたしは思いこんでいたのだ。

光一くんも、じゃんけんかくじ引きで無理やり押しつけら

れた口だろう。きつと、すごくいいかげんで、無責任で、途

中で仕事を放棄することだって十分に考えられる。

わたしは覚悟した。

ウサギもニワトリも、世話をしてやる者がいなければ死んでしまう。殺すわけにはいかない。自分に預けられた生命を無視できるほど、わたしは凶太くはなかった。やさしいわけではない。「わたしのせいで殺してしまった」なんて思いを引きずりたくないのだ。凶太くないうえに、誰かに上手に責任転嫁できるほど器用でもなかったのだ。

不器用で、きまじめで、融通がきかない。

付き合いくらいの人だ、かわいげのない子だと言われていた。でも、しょうがない。これが、わたしだ。

不器用でも、きまじめでも、融通がきかなくても、わたしはわたしを生きるしかない。

わたしは、開き直ったように、でもどこかたくなに十一歳を生きていた。今でもまだ、そういうところはあるけれど、思いこみの強い性質なのだ。

光一くんに会って、変わった。

光一くんが変えてくれた。

「円藤って、ひょうひょうとしてるね」

ウサギ小屋のそうじをしながら光一くんに言われたことがある。ひょうひょうの意味がわからなかった。

糞をはき集めていた手を止め、わたしはふり向く。光一くんがわたしを見上げていた。

目が合った。

やわらかな淡いひとみだ。

光一くんと目を合わせたのは、このときが初めてだった。

「ひょうひょうって？」

わたしがたずねる。光一くんが首をかしげる。

「うーん。大らかってことかなあ。あんまり、ごちゃごちゃこだわらない、みたいな……感じかな」

②「そんなことないよ」

大声で否定していた。

自分で自分の声におどろいてしまった。

ウサギの糞のにおいが鼻孔に広がって、咳きこむ。

ごほっ、ごほごほ。

「円藤、だいじょうぶか？」

「うん……だいじょうぶ。ちょっと……びっくりしただけ」

「びっくりするようなこと、言ったっけ？」

「言ったよ」

わたしはにおいにむせて、また、咳いていた。

光一くんが片手でわたしの背中をたたく。これにも、おどろいた。もう五年生だ。男子と女子の距離が何となく開いていく時期だった。距離の取り方をみんな、手探りしている時期だった。

③「こんなにあっさり背中をたたいてくれるなんて、たたけるなんて不思議だ。」

「何を言ったかなあ」

背中をたたきながら、光一くんがつぶやく。妙にのんびりした口調だった。光一くんに合わせるように、となりのニワトリ小屋で雄鶏のコースケがのんびりと鳴いた。

コケー、コケーッコー。

おかしい。

(答えはすべて解答用紙に記入しなさい)

おかしくてたまらない。

ふき出してしまった。笑いが止まらない。

「えー、今度は笑うわけか。どうしたらいいんだろうなあ」

光一くんの一言に、わたしはさらに笑いをさそわれる。

おかしい、おかしい。ほんと、おかしい。

何て、おもしろい人だろう。

何て、ヘンテコでゆかいな人だろう。

知らなかった。

④ 下野原光一くんて、こんな人だったんだ。

笑いながら、わたしの心は、ほわりと軽くも温かくなっていく。

心地よかった。

光一くんは、飼育委員の仕事をなまけなかった。いいかげんに済ますことも手をぬくこともしなかった。むしろ、わたしより熱心に取り組んでいた。

夏休みには、ちゃんと当番表をこしらえて、友だちや先生にも協力してもらって、毎日、登校しなくていいように工夫した。ニワトリ小屋に新しいえさ場や水飲み場も作った。

(プラスチックのおけとペットボトルを組み合わせた簡単なものだったけれど、とてもりっぱに見えた。) 学校近くの農家を回って、野菜のくずを分けてもらいえさに混ぜたりもした。野菜くずとはいえ新鮮で、ニワトリもウサギもえさ箱に入れたとたん、夢中でついばみ、かぶりついた。

光一くんが自分から飼育委員に立候補したと聞いたのは、水飲み場を作っている最中だった。

ずっとやりたかったんだと光一くんは言った。

「五年生になったら、絶対立候補するって決めてたんだ」

飼育委員は五年生だけの役目だ。五年生しか、なれない。

「飼育委員の仕事……好きなの」

ペットボトルを光一くんにわたす。光一くんは、それを針金で作った輪っかに差しこみ、水の出方を調べる。うなじを幾筋もの汗が伝っていた。

「動物、好きなんだ。犬でも猫でもウサギでも」

「ニワトリも？」

「あ……ニワトリのことは、あんまり考えてなかった。でも、コースケやコッコやクックはかわいい。飼育委員になってから、ニワトリがかわいいって思えるようになった」

わたしはうれしかった。三羽の白色レグホーンのことをかわいいと言ってくれる人がそばにいることがうれしかった。

光一くんももっといろんな話がしたかった。でも、何をどう話したらいいのか見当がつかない。軽やかに、適当におしゃべりする技術をわたしは、ほとんど持ち合わせていなかった。

⑤ 自分が歯がゆい。痛いほど歯がゆい。

「円藤も、動物好きだよな」

光一くんが顔を上げ、額の汗をぬぐう。わたしは、じゃんけんで負けて飼育委員を押しつけられただけ……とは言えなかった。

「あ、うん。家にも猫と犬がいるし……」

「ほんとに？ 猫も犬もいるわけ。すげえな」

「あっ、そんな。どっちも雑種だよ。犬は近所からもらって

きたの。猫は二ひきとも捨て猫。真っ白とミケ」

「えーっ、猫が二ひきもいるんだ。すげえすげえ」

「だから、雑種なんだって」

「雑種でもすげえよ。いいなあ、猫と犬かあ」

「ペット、いないの？」

光一くんがうなずく。それから、小さく息をはき出した。

「妹がぜんそくぎみなんだ。動物の毛にすごい反応しちゃうから、家ではペット、飼えないんだよな」

「妹、いるんだ」

「うん、いる。一人ね」

「いくつ？」

「今年一年生になった。でも、けっこう、休むこと多いかな」

「そう……、じゃあ飼育委員とかできないね」

「うん、おれが飼育委員になったって言ったら、いいなあってすぐくうらやましがってた」

「何て、名前」

「あかり。ひらがなであ、か、り」

「かわいい名前だね」

光一くんが動物を好きなこと、四つちがいのあかりちゃんをかわいがっていることを、わたしは知った。

飼育小屋の中で、わたしと光一くんはぼそぼそと、会話をかわした。そのたびに、わたしは光一くんのことを知っていく。^⑥わたしの光一くんが溜まってくる。積み重なっていく。

コースケたち三羽のニワトリは、わたしたちが六年生に

なって間もなく、死んだ。新たに飼育委員になった五年生が、戸のかぎを閉め忘れてしまったのだ。戸を開けて、野良猫か野良犬か、あるいは裏山からきつねが小屋にしのびこんだらしい。

ニワトリたちは無残に殺された。わたしがニワトリ小屋にかけつけたとき、小屋には何もいなかった。血のあとと白い羽毛が地面に散っているだけだった。光一くんの作った水飲み場はこわれ、ペットボトルがななめに傾いでいた。

何もいなかった。

からっぽだった。

「コースケ」

金網に指をかけて、呼んでみる。

糞のにおいはまだ残っているのに、コースケたちはいない。

消えてしまった。

「コッコとクックを守ろうとして、戦ったんだよね」

消えてしまったコースケに話しかける。

目の奥が熱くなった。

わたしはわたしがコースケをとっても好きだったんだと気がついた。

いなくなつて、やっと気がついた。

コースケが好きだったんだ。

紅色のとさかをゆらして堂々と歩く姿も、年をとって元気のなかったクックに寄りそっていたやさしさも、止まり木につかまりそこねてしょっちゅう落ちこちていたおぼかな格好も、好きだった。

コースケ。

額を金網に押しつけて、泣いた。あとがはっきりと残るだ

(答えはすべて解答用紙に記入しなさい)

ろう。みっともない顔になるだろう。

かまいはしない。

泣くより他に何もできない。

「円藤……」

背後で名前を呼ばれた。

ふり向かなかった。

ふり向かなくても、光一くんが立っているとわかった。

光一くんは、わたしの横に来て、わたしと同じように金網に指をかけた。そして、同じように目をこらした。一生懸命にさがせば、どこからかコースケが現れると信じているみたいに、見つめていた。

⑦ 光一くんが何も言わないのがあった。

わたしはだまって、立っていた。

光一くんもだまって、立っていた。

(あさのあつこ「下野原光一くんについて」)

(問題の都合により本文の一部を変更しています。)

問一 —— 線①「最初、がっかりした」とありますが、それはなぜですか。その理由として最もふさわしいものを次のア～エから選び、記号で答えなさい。

ア 動物の世話で夏休みがつぶれてしまうことがゆううだったから。

イ 男子のことが苦手で、女子と一緒に飼育委員の仕事がしたかったから。

ウ 動物の世話をまじめにしてくれる男子はいないと思いこんでいたから。

エ 光一くんはいいかげんで、無責任で、途中で仕事を放棄する人だから。

問二 ~~~~~ 線 a・b の言葉の意味として最もふさわしいものを次のア～エから選び、記号で答えなさい。

a 図太くはなかった

ア 厚かましくはなかった
イ やさしくはなかった
ウ すなおではなかった
エ 気まぐれではなかった

b 開き直った

ア 自分に言い聞かせた
イ あきらめて覚悟を決めた
ウ 他人のせいにした
エ 見て見ぬふりをした

問三 ——— 線② 「大声で否定していた」とありますが、

「わたし」はなぜ「否定」したのですか。次の□
I・IIに合う言葉を、本文中からそれぞれ書きぬきなさい。ただし、指定された字数で答えること。(句読点も字数に数えます。)

光一くんは「わたし」を「あんまり、ごちゃごちゃ

I (六字) 「人と思ってくれたが、「わたし」自身

はそうではなく、□ II (十八字)

□ と思っていたから。

問四 ——— 線③ 「こんなにあっさりと背中をたたいてくれ

るなんて、たたけるなんて不思議だ」とありますが、なぜ「わたし」は「不思議だ」と思ったのですか。その理由が書かれている一文を本文中から二か所探し、最初の五字をそれぞれ書きぬきなさい。(句読点も字数に数えます。)

問五 ——— 線④ 「笑いながら、わたしの心は、ほわりと軽

くも温かくなっていく」とありますが、このときの「わたし」の様子を説明したものととして最もふさわしいものを次のア～エから選び、記号で答えなさい。

ア 光一くんのおかしな発言によって、「わたし」の心が閉ざされていく様子。

イ 光一くんのやさしい人柄ひとがらを知って、「わたし」がおどろいている様子。

ウ 光一くんとの交流を通じて、かたくなな「わたし」の心がほぐれていく様子。

エ 光一くんのヘンテコな行動に対して、「わたし」がとまどっている様子。

(答えはすべて解答用紙に記入しなさい)

問六

——線⑤「自分が歯がゆい。痛いほど歯がゆい」とありますが、このときの「わたし」の気持ちを説明したものと最もふさわしいものを次のア～エから選び、記号で答えなさい。

- ア 光くんは飼育委員の仕事に熱心に取り組んでいるのに、自分はなまけてしまって、情けない気持ち。
- イ 光くんは動物が好きだが、自分はそれほど好きではないため、うしろめたい気持ち。
- ウ ニワトリのことをかわいと思う気持ちを光くんと共有することができ、うれしい気持ち。
- エ 光くんともっといろいろな話したいのに、何をどう話したらよいか分からず、もどかしい気持ち。

問七

——線⑥「わたしの中に光くんが溜まってくる。積み重なってくる」とはどういうことですか。その説明として最もふさわしいものを次のア～エから選び、記号で答えなさい。

- ア 光くんと過ごすうちに、「わたし」は少しずつ飼育委員の仕事を覚えていくということ。
- イ 会話をかわすたびに、「わたし」は光くんの新たな一面を次々に知っていくということ。
- ウ 同じ飼育委員として、「わたし」の光くんに対する関心が高まっていくということ。

問八

エ 動物の世話を通じて、「わたし」の光くんに対する不満がつのっていくということ。

——線⑦「光くんが何も言わないのがあるがたかった」とはどういうことですか。その説明として最もふさわしいものを次のア～エから選び、記号で答えなさい。

- ア なぐさめやはげましではなく、「わたし」の思いに静かに寄りそってくれた光くんのやさしさに感謝したということ。
- イ 大好きなコースケがいなくなってさみしいのは「わたし」だけでなく、光くんも同じであることにうれしく思ったということ。
- ウ しばらく一人になりたいという「わたし」の思いをくみ、遠くから見守ってくれた光くんの気づかいに申しわけなく思ったということ。
- エ 泣いたあとが残ってみっともない顔になっている「わたし」に、光くんが気づいていないことに安心したということ。

第三問 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

舞台上に、父、母、娘、息子の四大家族がいるとする。この四人が、ちゃぶ台を囲んで話をしている。これは、まさに「会話」である。

しかし、このような会話がいくら延々と続いても、観客に有効な情報はなかなか出てこない。たとえば、お父さんの職業はいつこうにわからない。子どもがお父さんに、「お父さん、仕事なに？」と聞くわけにはいかないから。

そこで劇作家は常に、こういった場面には他者を登場させる。たとえば、娘の恋人が初めてやって来るといった設定を考える。娘の恋人が初めて家をおとずれる日には、日本のお父さんは最初は奥に引っ込んでいたので、母親が応対に出る。この場面で、

「いやいや、近頃は銀行も大変でしてねえ」といったせりふが母親から発せられれば、「ああ、この家のお父さんは銀行員なのか」という情報が、無理なく客席に伝わっていく。

これが「対話」の構造である。

演劇は他者を必要とし、「対話」の構造を要請する。

A、日本社会には、この「対話」という概念が希薄である。いや、それがほとんど、なかったと言ってもいいか

もしれない。

これは仕方のない側面もある。

一般に、日本社会は、ほぼ等質の価値観や生活習慣を持つ者同士の集合体。ムラ社会を基本として構成され、その中で独自の文化を培ってきたと言われてきた。

これはB、皆で一緒に田植えをし、草かりをし、稲かりをしなければ収量がなかなか上がらない稲作文化の宿命と言えるかもしれない。あるいは、極端に人口流動性の少ない社会を作った徳川幕藩体制が、そのような傾向に、さらに拍車をかけたとも言えるだろう。

私はこのような日本社会独特のコミュニケーション文化を、「わかりあう文化」「察しあう文化」と呼んできた。

C、ヨーロッパは、異なる宗教や価値観が、陸続きに隣りあわせているために、自分が何を愛し、何をにくみ、どんな能力を持って社会に貢献できるかを、きちんと他者に言葉で説明できなければ無能の烙印を押されるような社会を形成してきた。これを私は、「説明しあう文化」と呼んでいる。

両者は、それぞれが独立した文化体系であるから、どちらが正しいとか、どちらが優れているということはない。

実際、私たちは、この「わかりあう文化」「察しあう文化」の中から、様々な素晴らしい芸術文化を生み出してきた。たとえば、

(答えはすべて解答用紙に記入しなさい)

柿くへば 鐘が鳴るなり 法隆寺

という句を聞いただけで、多くの人びとが夕暮れの斑鳩注いかるがの里の風景を思い浮かべることができる。これは大変な能力だ。

この均質性、相手が何が言いたいのかを察しやすい社会が、日本をアジアの中でいち早く近代国家へと導いたことはまちがいないだろう。我々は、組織②あうんだって、一丸となって何かを行うときに、まさに阿吽あうんの呼吸で大きな力を発揮する。

だが一方で、こういった「察しあう」「口には出さない」というコミュニケーションは、世界においては少数派だ。少数派だからダメだと言っているわけではない。少数派の強みもある。

あるいは、現代社会のようにキリスト教とイスラム教という一神教同士が正面からぶつかりあっている世界の現状を見ると、「まあ、まあ、そこはお互い察しあってさ」という仏教的というか、日本的というか、そのようなあいまいで慈愛じあいに満ちたコミュニケーションの形が、なんとなく世界平和に貢献できる部分もあるのではないかと感じることも多い。

だが、そうは言っても、やはり文化的に少数派であるという認識は、どうしても必要だ。そうでないと、ビジネスや日常生活の場面では、日本人は、いつまで経たっても理解不能な変わり者あつかいになってしまう。

そして、否が応でも国際社会を生きていかなければならぬ

い日本の子どもたち、若者たちには、察しあう・わかりあう日本文化に対する誇りほこを失わせないままで、少しづつでも、他者に対して言葉で説明する能力を身につけさせてあげたいと思う。

だがしかし、「説明する」ということはむなししいことでもある。

柿くへば 鐘が鳴るなり 法隆寺

を説明しなければならぬのだ。柿を食べていたら偶然鐘ぐうぜんが鳴ったのか。鐘が鳴ったから、柿を食いたくなったのか。法隆寺はなんの象徴か。こんな身ふたも蓋もない説明を、しかし私たちは、他者に向かってくり返していかなければならない。

TPP（環太平洋戦略的経済連携協定）に入ったからと言って、第三の開国が成就するわけではない。本当に私たちが行っていかなければならない精神の開国は、おそらくこの空くう虚きょに耐えるという点にある。

『対話』と『対論』はどう違うのですか？』という質問もよく受ける。

「対論」＝ディベートは、AとBという二つの論理が戦って、Aが勝てばBはAにしたがわなければならぬ。Bは意見を変えねばならないが、勝ったAの方は変わらない。

「対話」は、AとBという異なる二つの論理がすりあわせ

り、Cという新しい概念を生み出す。AもBも変わる。まずはじめに、いずれにしても、両者ともに変わるのだということを前提にして話を始める。

だが、こういった議論の形も日本人は少し苦手だ。最初に自分が言ったことから意見が変わると、何かうそをついていたように感じてしまうのかもしれない。あるいはそこに、敗北感がともなってしまう。

「対話的な精神」とは、異なる価値観を持った人と出会うことで、自分の意見が変わっていくことを潔しとする態度のことである。あるいは、できることなら、異なる価値観を持った人と出会うことで議論を重ねたことで、自分の考えが変わっていくことに喜びさえも見いだす態度だと言ってもいい。ヨーロッパで仕事をしていると、些細なことでも、とにかくやたらと議論になる。議論をすること自体が楽しいのだろうと思えないときもある。

三〇分ほどの議論を経て、しかし、たいてい日本人の私(A)の方が計画的だから、その「対話」の結末は、Cというよりは、当初の私の意見に近い「A」のようなものになる。そこで私が、

「これって結局、最初にオレが言っていたのと、ほとんど変わらないじゃないか」

と言うと、議論の相手方(B)は必ず、

「いや、これは二人で出した結論だ」

と言ってくる。

だが、この三〇分が、彼らにとっては大切なのだ。

とことん話しあい、二人で結論を出すことが、何よりも重要なプロセスなのだ。

幾多の(おそらく私よりも明らかに才能のある)芸術家たちが海外に出て行って、しかし必ずしもその才能を伸ばせないのは、おそらくこの対話の時間に耐えられなかったのではないかと私は推測している。様々な舞台芸術の国際協働作業の失敗例を見ていくと、日本の多くの芸術家は、この時間に耐えられず、あきらめるか切れるかしてしまうのだ。日本型のコミュニケーションだけに慣れてしまっていると、海外での対話の時間に耐えきれずに、「何でわからないんだ」と切れるか、「どうせ、わからないだろう」とあきらめてしまう。演劇に限らず、音楽、美術など、どのジャンルにおいても海外で成功している芸術家の共通点は、ねばり強く相手に説明することをいとわないうところにあるように思う。日本では説明しなくてもわかってもらえる事柄を、そのむなしさに耐えて説明する能力が要求される。

私はこの能力を、「対話の基礎体力」と呼んでいる。そして、小中学校の先生方には、

「対話の技術は大学や大学院でも身につきますから、どうか子どもたちには、この『対話の基礎体力』をつけてあげてください」

(答えはすべて解答用紙に記入しなさい)

とお願ひしてきた。

異なる価値観と出くわしたときに、物怖じせず、卑屈ひくつにも尊大そんたいにもならず、ねばり強く共有できる部分を見つけ出していくこと。ただそれは、単に教え込めばいいということではなく、おそらく、そうした対話をくり返すことで出会える喜びも、伝えていかなければならないだろう。

意見が変わることは恥ずかしいことではない。いや、そこには、新しい発見や出会いの喜びさえある。その小さな喜びの体験を、少しずつ子どもたちに味わわせていく以外に、対話の基礎体力を身につける近道はない。

(平田オリザ「わかりあえないことから
——コミュニケーション能力とは何か」)

(問題の都合により本文の一部を変更しています。)

注 斑鳩の里……奈良県に位置し、世界文化遺産である法隆寺がある。飛鳥時代聖徳太子が斑鳩宮を造ったことから発展した。

問一 —— 線①「『対話』の構造」には何が必要ですか。

本文中から漢字二字で書きぬきなさい。

問二 A～Cに当てはまる語として最もふさわしい

ものを次のア～オから選び、それぞれ記号で答えなさい。

- ア だから イ 一方 ウ たとえば
エ そして オ しかし

問三 —— 線②「阿吽の呼吸」の意味として最もふさわし

いものを次のア～エから選び、記号で答えなさい。

- ア 相手の呼びかけに反応すること
イ 互いの微妙びみょうな気持ちや行動が合うこと
ウ どんなことをされても動じないこと
エ 非常に仲が良く片時も離れないこと

問四 —— 線③「日本人は、いつまで経っても理解不能な

変わり者あつかいになってしまふ。」のはなぜですか。

その理由として最もふさわしいものを次のア～エから選
びなさい。

- ア 日本人は何を愛し、何をにくみ、どんな能力を
持って社会に貢献できるか伝えようとしなから。

イ 日本人は何も言わなくても阿吽の呼吸で組織を作り、一丸となって大きな力を発揮するから。

ウ 日本人は自分が信じていることと異なることも受け入れるため、何が一番大切なのか分からないから。
エ 日本人は他者とコミュニケーションをとらないため、何を考えているのか伝わらないから。

問五

——線④「こんな身も蓋もない説明」について次の問いに答えなさい。

(1) 「身も蓋もない」の意味として最もふさわしいものを次のア～エから選びなさい。

- ア 全てを説明してしまうので、味わい深くないということ
- イ 欠点を隠そうともしないので、悪く見えてしまうこと
- ウ 人の気持ちに寄りそうことなく、気配りに欠けること
- エ やわらかい言い回しで、直接的にものを言わないこと

(2) 筆者は「柿くへば 鐘が鳴るなり 法隆寺」という俳句について説明することをなぜ「身も蓋もない」と言っているのですか。その説明として最もふさわしいものを次のア～エから選び、記号で答えなさい。

ア 俳句は「察しあう」という日本人の文化をよく表しているものだが、全てを説明してしまうのはヨーロッパ的だから。

イ 俳句は文字数が少ないから読むのが楽なのに、全てを説明してしまっただけは文字数が多くなってめんどうだから。

ウ 俳句は説明されないことで風情や心情を感じるこゝとが良いのに、全てを説明してしまっただけはその良さがなくなるから。

エ 俳句は「分かりあう」という日本人の誇りの象徴だが、全てを説明してしまっただけはその誇りを失くしてしまうから。

問六

——線⑤「対話の基礎体力」とはどういう能力ですか。「能力」に続くように解答用紙に書きなさい。

(答えはすべて解答用紙に記入しなさい)

第四問 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

手塚治虫さんが創り上げた鉄腕アトムは人間とのちがいに悩んでいた。「絵を見たって音楽を聞いたって……よかったなァって思ったことがないの」涙を流し、お茶の水博士に「ものを美しいと思う心」を懇願する。

人工知能（AI）を備えるロボットだ。芸術を理解しても不思議ではないが、手塚さんはそうなれば恐怖心が生まれ、悪を倒す力を失うというパラドックスを設定した。

今のAIに美意識はあるのか。「私は人間の感情を持つわけではありませんが、美しさについての概念や理解は備わっています」チャットGPTの答えだ。

画像生成AIも登場し、世界で創作活動が試みられている。手塚さんの作品を学習したAIを使ったプロジェクトで今秋、誕生50年を迎える「ブラック・ジャック」の新作が制作されるという。

無免許の天才外科医が活躍する名作。連載時にはなかったスマホを操る画像はAIならでは。だが、正義をあざ笑う一方、命を救うことに懸命になる主人公がどう描かれるのか。人間のクリエイターとの共同制作と聞いてホッとする気持ちもある。

「ぼくたちの時代には人間とロボットはうわべはうまくいっていたように見えました」手塚さんはアトムが顔を曇らせるディストピア的未來も描いた。AIとどうつき合っている

くか。「大きな可能性もあれば、まちがいになく大きな課題もある」チャットGPTの開発企業トップの言葉は本音だろう。利用を続けながら課題を克服する道を探ることが現実的な選択か。

（毎日新聞「余禄」二〇二三年六月十四日掲載）

注1 パラドックス……一見すると矛盾しているようなことが、実は正しい考え方を示しているということ。

注2 概念……物事の本質的な特徴をとらえる考え方。

注3 ディストピア……暗い未来や問題がたくさんある世界。

問一 —— 線①「ものを美しいと思う心」と同じような意味として本文中で使われている語を漢字三字で書きぬきなさい。

問二 —— 線②「あざ笑う」と同じような意味を持つ熟語として最もふさわしいものを次のア～エから選び、記号で答えなさい。

- ア 微笑^{びしょう}
- イ 冷笑
- ウ 苦笑
- エ 失笑

問三 —— 線③「ホッとする気持ちもある」と筆者が言うのはなぜですか。その理由として最もふさわしいものを次のア～エから選び、記号で答えなさい。

- ア 時間のかかる作業をする必要があるとき、AIに任せることで人間が重要な作業に集中できるから。
- イ 人間の情報収集力や分析力^{ぶんせき}を上回るAIの優れた能力を用いることで、質の高い作品になるから。
- ウ 単調な作業をAIに任せることで、人間の負担が減り、より創造的な部分を創作できるから。
- エ AIが生成できない微妙な感覚^{びみょう}を人間のクリエイターの生身の感覚で補うことができるから。

問四 次に挙げる本文中の会話文のうち、鉄腕アトムの言葉はどれですか。次のア～エから二つ選び、記号で答えなさい。

- ア 「絵を見たって音楽を聞いたって……よかったなアって思ったことがないの」
- イ 「私は人間の感情を持つわけではありませんが、美しさについての概念や理解は備わっています」
- ウ 「ぼくたちの時代には人間とロボットはうわべはうまくいっていただけに見えました」
- エ 「大きな可能性もあれば、まちがいなく大きな課題もある」

問五 —— 線④「AIとどうつき合っていくか」とありますが、あなたはどうか考えますか。AIができることと人間がするべきことについて、それぞれ一つずつ例を挙げて、あなたの考えを書きなさい。

(答えはすべて解答用紙に記入しなさい)

